
事業計画書

2022（令和4）年度



2022 年 3 月

学校法人 樟蔭学園

2022(令和4)年度事業計画の策定にあたって

本学園は、1917年の創立以来、「高い知性と豊かな情操を兼ね備えた社会に貢献できる女性の育成」を建学の精神として、女子教育の発展に貢献してまいりました。その間に、私学を取り巻く環境をはじめ、社会全体の環境や人々の生活のスタイル、価値観も大きく変化しましたが、今、コロナ禍を契機に、更に諸環境は激変への一途を辿ろうとしています。

本学園は、2020年度に、樟(くすのき)のように内なる輝きを発する女性を育成する『樟蔭美』をブランドコアとして再定義し、長期ビジョン「Shoin Vision 2030」を掲げて、そのもとに「第Ⅲ期中長期計画(2020年度～2024年度)」を策定しました。2022年度は計画期間の中間点に位置しますが、計画策定段階ではかつてのノーマルな状態をベースに将来を見ていましたので、あらゆる面で、課題設定の見直しも迫られているところです。



コロナ感染症の終息がまだ見えない中、行動には制約を受け、目の前には不確実性の高い状況が厳然と在りますが、今ここにある変化をチャンスとして捉え、制約が生み出す価値を見出し、変えないものと柔軟に変えていくべきものを見極めて、これからの学園の課題に、また例えばSDGsのような社会共通課題に、取り組んでいきたいと考えています。

公教育を担う私学として、社会全体の「well-being(ウェルビーイング)」の向上に貢献していく意思をここに示し、2022年度取り組みを本事業計画書にまとめましたので、何卒、取り組みにご理解を賜りまして、一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

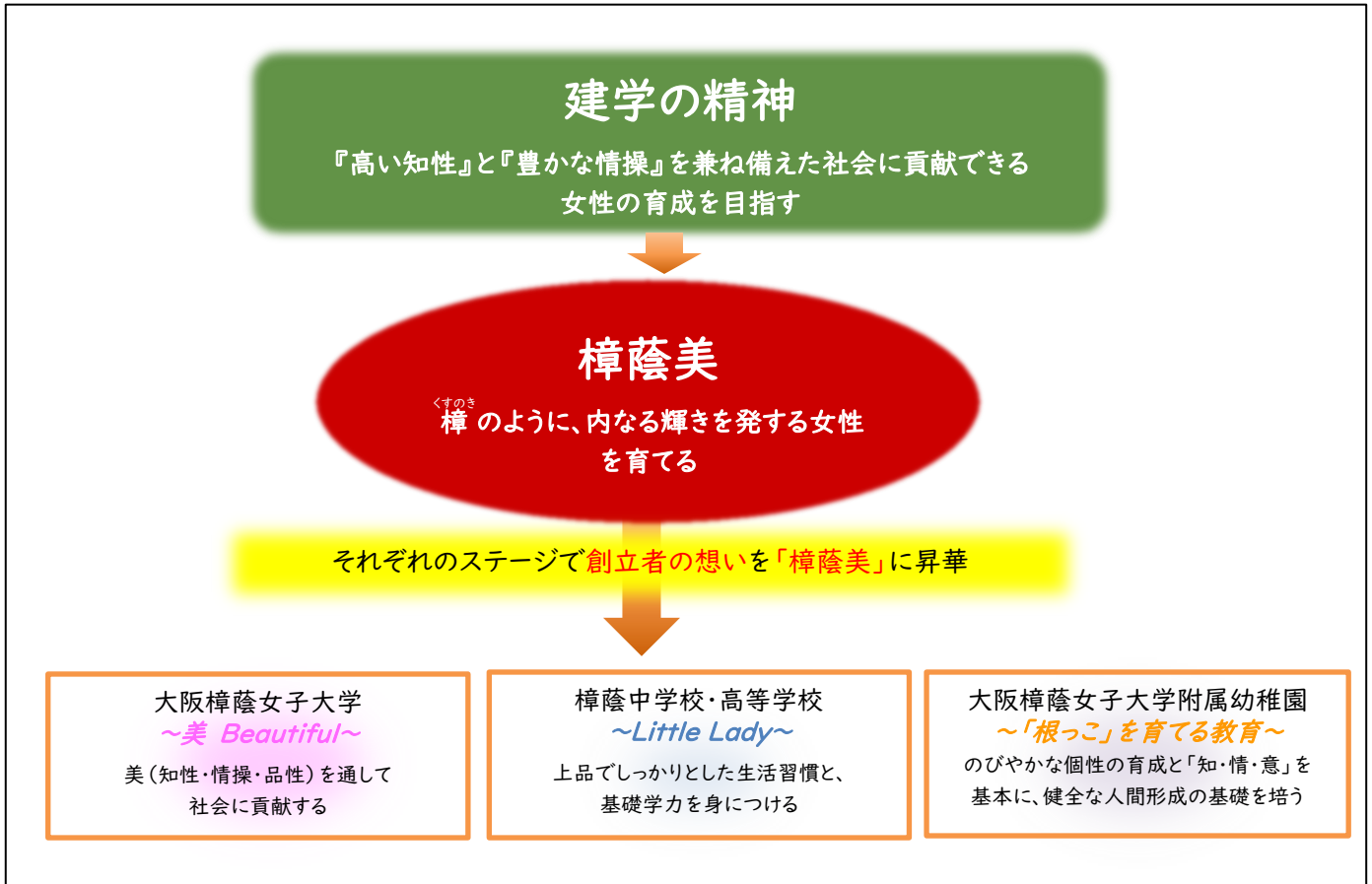
目次

2022(令和4)年度事業計画の策定にあたって	1
学園及び設置校の将来像(長期ビジョン)と中期計画の位置付け	2
I 設置する学校・学部・学科等	3
II 設置学校及び学園の事業計画	
大学・大学院	4
高校・中学	9
附属幼稚園	12
学園	14

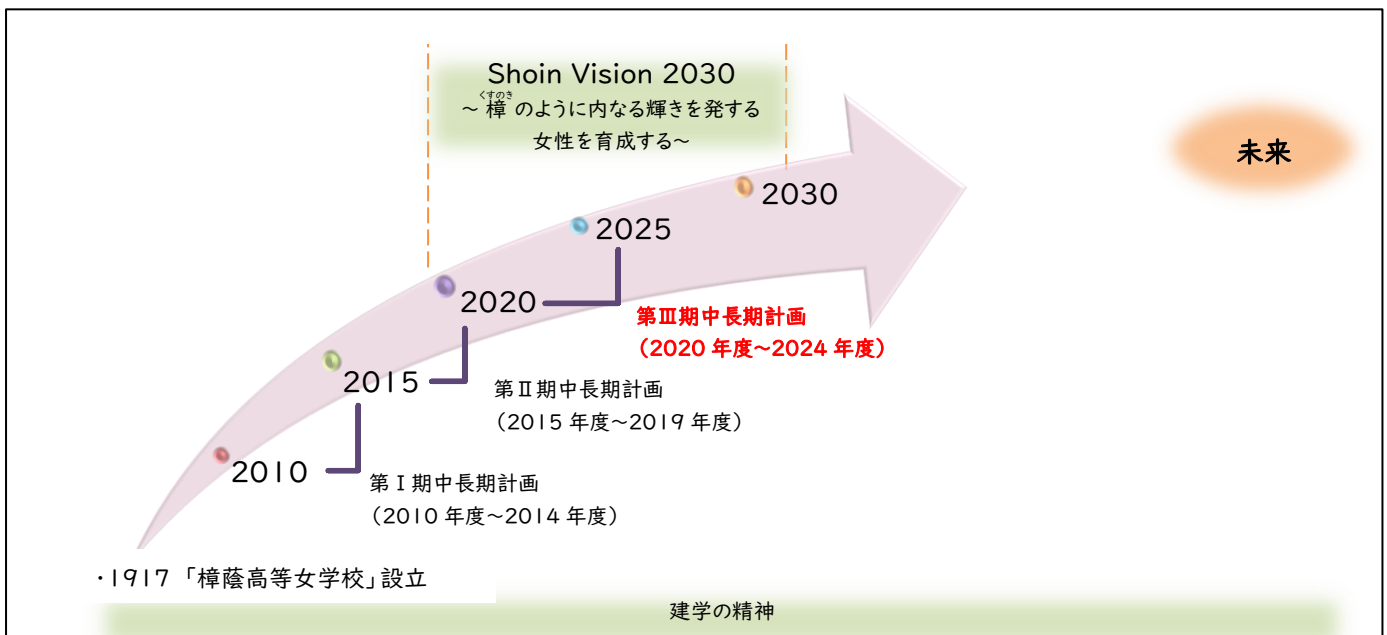
Shoin Vision 2030

学園及び設置校の将来像（長期ビジョン）

樟蔭学園が百有余年の歴史の中で育て上げてきたものの根幹は、学生生徒それぞれが内なるものとして培った女性としての芯、意思、またその強さであり、「樟蔭美」という価値観に集約されます。今後、建学の精神のもとに、「樟のように内なる輝きを発する女性を育てる」ことを通じて、社会の幸せのために力を発揮していける存在として在り続けます。



中期計画の位置付け



I 設置する学校・学部・学科等

(2022 年 4 月)

○大阪樟蔭女子大学

研究科・学部・学科	学位	入学定員	収容定員	開設年度
人間科学研究科(修士課程)				
臨床心理学専攻	修士(臨床心理学)	8	16	2004(H16)年 4 月
人間栄養学専攻	修士(人間栄養学)	8	16	2005(H17)年 4 月
化粧品ファッション学専攻	修士(化粧品ファッション学)	10	20	2013(H25)年 4 月
大学院計		26	52	
学芸学部				
国文学科※3	学士(国文学)	60	260	1949(S24)年 4 月
国際英語学科	学士(国際英語学)	40	160	2010(H22)年 4 月
心理学科	学士(心理学)	80	320	2015(H27)年 4 月
ライフプランニング学科※4	学士(ライフプランニング)	60	220	2007(H19)年 4 月
化粧品ファッション学科	学士(被服学)	120	480	1949(S24)年 4 月
計		360	1,440	
心理学部				
臨床心理学科※1	学士(心理学)	—	—	2009(H21)年 4 月
計		—	—	
児童教育学部※2				
児童教育学科※2	学士(児童教育学)	170	680	2009(H21)年 4 月
計		170	680	
健康栄養学部				
健康栄養学科	学士(健康栄養学)	160	640	2015(H27)年 4 月
計		160	640	
学部計		690	2,760	
大学計		716	2,812	

※1 2015 年度募集停止 ※2 2018 年度児童学部児童学科より名称変更、2019 年度より収容定員増加

※3 2020 年度より収容定員削減 ※4 2020 年度より収容定員増加

註) 名称変更を行っている学科の開設年度は、当初の学科の開設年度を記載しています。

開設年度の S は「昭和」、H は「平成」を表します。

○樟蔭高等学校

設置課程等	コース	募集定員	開設年度
全日制普通科	国際教養、看護系進学、総合進学、 身体表現、児童教育、フードスタディ	280 (内部: 70) (外部: 210)	1948(S23)4 月

○樟蔭中学校

コース	募集定員	開設年度
国際教養、総合進学、身体表現	70	1947(S22)4 月

○大阪樟蔭女子大学附属幼稚園

	募集定員	開設年度
3・2・1 年保育	3 歳児: 50 4 歳児・5 歳児: 若干名	1951(S26)4 月

Ⅱ 設置学校及び学園の事業計画

【大阪樟蔭女子大学・大学院】

樟蔭学園の『建学の精神』に則り、2030 年度に向けて策定したグランドデザイン「美（知性・情操・品性）を通して社会に貢献する～美 Beautiful～」の趣旨に沿ったビジョンの具体化を推進します。

Ⅰ 使命・目的の実践				
No.	施策	目標	2022 年度事業計画	年数
グランドデザイン 2030 と変化への対応				
1	グランドデザインの浸透	建学の精神を踏まえ、グランドデザインが学内外に認知され、2030 年に向けて実行されている	前年度の履行状況の検証 各種施策 6 つのビジョンに沿った取り組みの実行	3/5 年目
2	時代の変化に対応した学部・学科改革	社会情勢・動向を考慮し、他大学にはない魅力を有し社会に求められる学部学科構成になっている	検討した内容の実現に向けた実行	3/5 年目
教育研究組織の革新と充実				
3	学芸学部の実践	充実した教養教育を実施するとともに、各学科の長所を活かして学部一体感を醸成した教育が展開されている	完成年度を迎え継続してきたカリキュラムの検証 次年度のカリキュラムの確立 2023 年度学芸学部化粧ファッション学科について、美容コース定員増を含む学科全体の入学定員変更（増）に向けての届出及びその他準備	3/5 年目
4	児童教育学部の実践	保育士ならびに幼稚園、小学校、中学校の教育現場で活躍する人材を育成し、社会に輩出している	完成年度にあたり、4 年間の検証 改善が必要な課題について見直しと対策案の構築 2023 年度児童教育学部定員変更（減）に向けての届出及びその他準備	3/5 年目
5	健康栄養学部の実践	管理栄養士・栄養士を中心に広く栄養・食・教育の分野で時代のニーズに対応して活躍する人材を育成し、社会に輩出している	体制の見直しの継続 実行できるところからの改善実行	3/5 年目

2 学生の受け入れ				
No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
安定した学生確保に向けた入試制度・広報体制の整備				
6	新入試制度への対応	2021 年度新入試制度の検証・改善を踏まえ、2024 年度入試への対応が問題なく終了している 定員 690 名に対して 730 名[約 1.06 倍]の入学生を安定的に確保できるようになっている	改正 2024 年度入試を視野に新入試制度の見直し・改良 オープンキャンパスの効果的コンテンツと運営再構築、実施	3/5 年目
7	安定した学生確保に向けた広報体制の整備	広報体制や広報的な技術能力の見直しを進め、効率的、戦略的な広報を行い、オープンキャンパス等のイベントへの参加を促進することで安定した入学者数を確保することができている 高校等への訪問によるダイレクトな広報を効果的に行うよう工夫している（営業力を強化している）	「広報組織力」「関係構築力」の見直し 「戦略構築力」の見直し 「情報発信力」の見直し 「情報収集力・分析力」の強化 「イベント誘導力」の見直し	3/5 年目

8	組織横断的な教職員連携強化(教職協働)	入試関連行事・広報活動を通して、部署を超えての協業体制や情報が双方向で流れ共有する体制ができており、教職員の有機的な連携ができています	参加・関与／パートナーシップの促進 組織横断的な入試関連イベント企画等チーム(若手中心)の設定、試行的稼働 指名職員による高校訪問活動の本格的稼働 学外説明会での説明要員の育成	3/5 年目
9	ステークホルダーとの連携強化	心理的距離にある受験生や高等学校に対して、教学あるいは財務的な諸制度やメリットを提供し、常に振り向いてもらえるようになっている	協定校への教学メリットの拡充 入試制度修正案(要件・実施方法等)提起 新入試制度での魅力訴求 財務メリットの見直し 発信力の強化	3/5 年目

3 学生のサポート

No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
学修支援				
10	学修支援体制の充実	学修者本位の濃い学びが修得可能な学習環境が提供できるよう、不断にその支援体制の見直し、充実を図っている	学生の意見・要望も汲み上げた学修支援体制の見直しと計画的な充実 前年度の意見・要望を踏まえた計画の立案ならびに実行実現	3/5 年目
11	特別な配慮を求める学生への学修支援策の提供	すべての教職員が、支援が必要な学生について理解し、所属学科と連携しており、支援が必要な学生が求める支援を受けることができています	支援に関する相談業務の充実(支援方法の検討を含む) 障がい理解に関する情報提供 対応困難事例への支援会議による介入 支援会議によるコーディネーター・学科間の連携の見直しと強化 教職員の障がい理解促進	3/5 年目
キャリア支援				
12	キャリア教育の充実・強化	全学科1年次から4年次までのキャリア教育体制が整備されている	1年生キャリア科目の受講しやすい時間割の検討 1年生向けインターンシップ受け入れ企業の新規開拓	3/5 年目
13	就職・進学支援体制の充実	学生が卒業までに自分の希望する進路を決定し、選択することができている	将来のあるべき姿をポートフォリオに記載(学生) ポートフォリオ情報の該当教職員による共有、指導	3/5 年目
14	教職希望者に対する支援策の実施	教職支援センターの円滑な運営がなされ、教職を志す学生のニーズに応える支援を提供できている (エントリー数:毎年度 400 名以上) (利用者数:延べ 360 名以上) (教職志望学生の 90%が利用)	教職支援センターの安定的な運営の実現 教職志望学生に対する支援体制の完成 教員採用試験の受験率の向上	3/5 年目
学生生活支援				
15	学生生活支援体制の充実	すべての学生が充実した学生生活を過ごすための支援を受けることができています	ワンストップサービスに向けた学生生活支援体制の検討 課外活動充実策の具体化 新たな学生生活支援の検討	3/5 年目
16	特別な配慮を必要とする学生生活支援体制の充実	すべての教職員において、支援が必要な学生について理解が進み、学生に関わる各部署が連携しており、支援が必要な学生が求める支援を受けることができています	障がい理解に関する情報提供 対応困難事例への支援会議による介入 支援会議による各部署連携の検証 教職員の障がい理解推進体制の確立	3/5 年目
学修環境の整備				
17	施設・設備の適切な管理と運営	教育目的達成のため、校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、付属施設などの施設設備を適切に整備し、かつ有効に活用している	管理体制に基づく各種施設・設備の整備 施設・設備の有効な活用	3/5 年目

18	バリアフリー化を含む施設・設備の利便性向上	施設・設備の利便性（バリアフリーなど）に配慮している	教職員・学生からの要望や各種アンケート等から課題の抽出 設備改善計画の作成及び実行	3/5 年目
学生の意見・要望への対応				
19	学生の意見・要望の収集と把握	学生の意見や要望について、複数の調査・アンケートによって、十分に収集、把握ができています	入学時、在学中、卒業時のアンケート調査の見直しと実施 意見・要望収集の着実な実施	3/5 年目
20	学生の意見・要望の分析と対応	各種の調査やアンケートによって把握された学生の意見や要望について、分析が実施され、適切に対応できている	学生の意見や要望の分析の実施と見直し 分析結果の活用と適切な対応、評価	3/5 年目
退学者低減に向けた支援の充実				
21	退学者の低減に向けた施策の推進	IR データに基づき低減に向けた施策が推進され、退学率が3%未満となっている	データ解析に基づく修学面から困難になる学生に対する施策の立案と実施	3/5 年目

4 教育課程の改善				
No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
3 つのポリシーの継続的な検証と改善				
22	学部・学科における3つのポリシーの検証と改善	毎年、各学部、各学科のミッションを含めた3つのポリシーの検証を行い、学修者本位の教育の質の向上を図るべく、教育課程の改善に努めている	ミッション・ポリシーの検証 ホームページへの開示（年度末）	3/5 年目
カリキュラム・教育方法の改善・向上				
23	カリキュラム編成及び運用の改善・向上	ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに則った適切な卒業判定・進級判定が実施されている カリキュラムポリシーに即した体系的な教育課程が編成され、それに基づくナンバリングや履修系統図が作成される一方、それらを活用したシラバスの充実・強化等が図られている ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを実現するための柔軟な学年暦が運用されている	現状の学年暦に即した形での教育課程の改善 ※2020～2021 年度におけるコロナ禍の影響により、学年暦変更に係る検討は保留、 現下の社会状況を踏まえたアドミッションポリシーの再検証 時代の変化に対応しうる新たな教育課程の検討への着手	3/5 年目
24	教育方法の改善・向上	組織的な計画の下、アクティブ・ラーニングや ICT 等が十分に活用され、教育方法の改善が不断になされている	更なる教育方法の改善の推進 アクティブ・ラーニングや ICT 活用の推進 教育環境整備計画の推進	3/5 年目
学修成果の点検・評価				
25	3つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価と学生への浸透	毎年度、3つのポリシーを踏まえた学修成果について点検・評価を実施している 学生自身が学修成果を実感・理解できるような方法・システムが構築されている	学生のふりかえり結果も踏まえた、学修成果の点検・評価の実施 提案した学修成果のふりかえり方法の改善と学生への浸透	3/5 年目

5 教学マネジメント、教員・職員配置、研修				
No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
教学マネジメントの機能性の向上				

26	適切な教学マネジメントの体制の再構築	学長がリーダーシップを適切に発揮し、全学点検・評価会議を着実に実施している	教学マネジメントの遂行に伴う機能性向上の検証	3/5年目
教員の配置				
27	教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置	大学及び大学院に必要な専任教員を確保し、適切に配置している	2020 年度に策定した人員配置計画の実施	3/5年目
教員・職員の職能開発・研修				
28	FD (Faculty Development) をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施	「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」を踏まえた FD、その他教員研修の組織的な実施とその見直しを行っている	FD、その他教員研修の組織的な実施と見直し	3/5年目
29	資質・能力の向上に向けた研修の実施	教職員の資質・能力向上のための研修等を組織的に実施し、組織人として SD (Staff Development) 活動が活発になされている	FD・SD 活動推進委員会との連携の元、教職員合同研修の実施	3/5年目

6 研究支援

No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
研究活動の推進・充実				
30	外部研究資金獲得への支援の充実	情報提供、資料作成支援体制を整備し、科研費その他の研究助成への応募者数が毎年増加している (応募者数:2020 年度比 30%増)	応募者数:2020 年度比 15%増	3/5年目
31	学内のリソースを活かした共同研究の推進	研究内容の開示とマッチングが行われ、年間 10 件以上の学外の研究機関との共同研究が進行している	学内外の研究担当者のマッチング件数:1 件	3/5年目
32	研究環境の整備	年間 5 件以上のシンポジウムを開催し、社会へアカデミック情報の発信がなされている 研究計画書ならびに Research map 更新が 100%なされ、教員の研究気運が高まっている	シンポジウムの開催 研究計画書の提出 Research map 更新	3/5年目
樟蔭美科学研究所の設立・運営				
33	樟蔭美科学研究所の設立・運営	2020 年度にスタートした研究所の円滑なる運営がなされ、研究成果を社会へ還元している 美に関する研究内容の開示とマッチング作業を行い、学内外の研究者・機関との共同研究が推進されている (美に関する研究テーマ 3 件、学会発表 2 件)	学外(他大学、地域)とのマッチング開始 美科学研究所の外部への発信(シンポジウム、セミナー、公開講座など)	3/5年目

7 内部質保証

No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
内部質保証のための自己点検・評価の実施				

34	定期的な自己点検・評価の実施	全学的な定期的点検・評価が毎年確実に実行されている	委員会ならびに会議の円滑な稼働 日本高等教育評価機構の認証評価を受審	3/5 年目
教学 IR 体制の強化				
35	IR 体制の整備・充実	教学マネジメント体制が適切に機能している 各種情報の集約がなされ、教学マネジメント体制の改善・改革に必要なデータの開示と活用が進んでいる	教学マネジメントに関する研修会の実施 IR 担当部署による入試、学務、学生データの管理体制構築 入試、学務、学生データの学内への開示促進	3/5 年目
36	IR データの積極的活用	集約された各種情報やデータが積極的に活用されている	収集データの再検討 IR データ活用の推進及び報告会の開催 IR データを活用した学園ブランディングの推進	3/5 年目

8 グローバル化への対応

No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
国際化に対応した教育体制の構築				
37	内なる国際化に対応した語学教育の充実	内なる国際化にも対応した英語を中心とした語学教育が充実している	学士課程基幹教育科目の「外国語」の見直し検討（実施可能な内容は実施） 英語での授業展開の試行	3/5 年目
38	海外研修（派遣）の強化	英語圏に限らず、留学希望する学生に対して支援が行われている	繰り返し検討内容の見直し	3/5 年目
39	外国人学生の受入れ	全学生の約 2%の外国人学生を受け入れている	国内日本語学校と連携 留学生市場の開拓・広報活動（教職員を海外へ派遣） 短中期留学の充実 日研生の受入れ 正規学生確保のための学内整備 HPの充実 留学生受入れ体制の充実	3/5 年目

9 地域連携・産学官連携

No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
地域連携				
40	地域連携の活性と強化	地方自治体との協定による活動が前年度以上に活発に行われている 学生主体の地域連携プロジェクト等学生の地域における活動を積極的に支援している（プロジェクト数:5 件）	地域との新規テーマ設定 地方自治体のテーマに基づく学生プロジェクト等の募集	3/5 年目
41	附属施設による地域貢献	カウンセリングセンター、くすのき健康栄養センター及び子育て絵本館等の地域貢献活動が活発になっている	各学内組織の地域における利用実績 2020 年度比 10%増	3/5 年目
産学官連携				
42	産学官連携の活性と強化	企業、地方自治体からの相談、受託研究受入の窓口を開設し、学内外の研究担当者とのマッチングによる連携実績がある（マッチング件数:年間 10 件以上）	学内外の研究担当者のマッチング	3/5 年目

【高校・中学】

高校・中学では、「高い知性」と「豊かな情操」を兼ね備えた、社会に貢献できる女性の育成を目指し、そのために「一人一人の夢を育て、その実現を目指す女子校」「一人一人の思いを大切にす、面倒見の良い女子校」「一人一人の興味・関心を引き出し、能力を高めていく女子校」として、日々、取り組んでいます。

1 樟蔭女子教育				
No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
「知情意」を兼ね備えた Little Lady の育成				
1	生活指導を通じた“Little Lady”の育成	生徒全員が、情操教育・マナーを身に付け思いやりの心を持っている	挨拶、言葉遣い、身嗜みなど、集団生活におけるマナーを学校生活のあらゆる場面において指導 情報モラル教育の内容の改善 樟蔭レッスンの内容の改善	3/5 年目
キャリア教育の実践				
2	発達段階に応じたキャリア教育の実践	生徒全員が、自分の将来について考える力を持っている	進路指導部によるキャリアホームルームの実施・改善 興味・関心や能力・適性を理解し、将来について考えることができる段階的な取り組みの実践 年間キャリア教育プログラムの効果検証	3/5 年目
人間力の育成				
3	励まし合いや思い遣りの心を養う教育活動の実践	生徒全員が、励まし合いや思い遣りの心を持っている	人権教育行事の内容の改善 自治会指導部によるクラブ活動方針の実践 樟蔭スタイルの内容の確立	3/5 年目

2 定員充足				
No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
生徒及び保護者の口コミによる広報効果の向上				
4	満足度の向上	生徒・保護者の満足度が 90%を超え、それが口コミで生徒募集に繋がっている	満足度調査の実施・結果の分析（調査検討 PT） 分析結果をもとに不満点の改善（運営委員会） 生徒、保護者満足度調査の実施による満足度の把握（満足度：90%以上）	3/5 年目
広報活動の充実				
5	塾・中学校への効果的な広報の実施	効果的な広報活動を行い、定員の確保が出来ている	重点塾、重点中学校、重点地域の見直し 中高のウリとアピール方法の見直し 広報担当者の訪問塾、中学の見直し	3/5 年目
6	メディア企画室による広報活動の充実	効果的なメディアによる広報活動で定員の確保が出来ている	メディア企画室による広報手段（マスコミ、WEB）の見直し 広報ツール（パンフ、チラシ等）の見直し	3/5 年目
新たな広報活動の実施				
7	樟蔭イングリッシュアカデミーの実施	樟蔭イングリッシュアカデミー（SEA）から児童が中学に入学している	SEA の実施と改善	3/5 年目
高校総合進学コースの特色の明確化				
8	高校総合進学コースを SS（セルフスタディ）コースとする	高校総合進学コースを SS コースとして完成	高 1 生に導入	2/4 年目

3 教育力の向上(FD)

No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
教員の資質の向上				
9	授業力の向上	教員一人ひとりの授業力が向上している	各プロジェクトチームによる効果検証と見直し 授業アンケートの実施と結果の活用による授業の改善 研究授業の実施による授業内容・方法の相互チェックと改善(研究授業:各教科年間2回合計18回) 管理職による教員の授業力向上に向けた授業見学及び助言指導(授業見学:各教員年間1回) 電子黒板及びメディア教室を活用したICT教育の推進(全授業の80%以上) アクティブラーニングによる授業の充実(全授業の80%以上)	3/5 年目
10	教員研修の実施	教員研修により意欲の向上と生徒・保護者への対応能力が向上している	管理職による定期的な研修及び面談の実施 「到達目標システム」による目標設定と到達度のチェック	3/5 年目

4 進路希望の100%実現

No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
学力の向上				
11	補習等の制度の充実	生徒の学力が向上し、進路希望が100%実現している	補習授業の実施 フォローアップ講座(英・数)(通年週1回) 制度補習(国際・看護) 個別指導(高3約8名) AO入試対策講座(高3) (進路希望100%実現)	3/5 年目

5 グローバル化への対応

No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
グローバル教育の実践				
12	グローバル教育の充実	グローバル化に対応できる生徒を育成している	i-lounge におけるグローバル教育の充実を図る行事の見直し 英検(準1級2名、2級30名、準2級50名、3級200名) 英語弁論大会及び英語暗唱大会 国際交流(台湾・ニュージーランドとのSkype交流) 学内留学(心理学・児童英語教育) 外国人教員による英検講座 海外研修(台湾・ニュージーランド・イギリス)	3/5 年目

6 サポート体制の充実

No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
キャリアサポートクラスの運営の充実				
13	キャリアサポートクラスの運営の充実	キャリアサポートクラス(CSクラス)を4クラス編成とし、在籍する生徒がきめ細やかなサポートを受けている	4クラス編成の運営準備 (CSクラスの在籍者数:45名)	3/5 年目

強化クラブの充実				
14	強化クラブの充実	強化クラブ(7 クラブ)が近畿、全国大会に出場している	外部指導員の採用	3/5 年目

7 ガバナンスの強化				
No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
中高組織の点検と見直し				
15	業務の見直し	業務の見直しを行った結果、仕事が厳選され働きやすい職場になっている	各部署・各委員会・各教科で業務の見直しと課題解決に向けた取り組みの継続	3/5 年目
16	会議の活性化と時間短縮	議論中心の会議となり、会議時間が短縮されている	検証結果をもとに改善、会議の活性化と時間短縮	3/5 年目
17	教員の授業持ち時間数の見直し	規程の持ち時間数となっている	前年度の取り組みの見直しと改善	3/5 年目
外部評価による組織の改善				
18	外部評価の結果の現場への取り入れと履行	外部からの評価・意見を取り入れ、評価結果をもとに改善できる環境が整っている	外部評価の結果を現場に取り入れ、履行する仕組みの見直し 前年度の評価結果の反映 年度末に外部評価委員会を実施	3/5 年目

8 安心・安全な環境の提供				
No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
環境整備				
19	トイレ及び教室等の改修	トイレの改修、机・椅子の入れ替えをし、教育環境が改善されている	改善計画をもとにした不備の改善	3/5 年目
災害対策				
20	災害時の対応の改善	災害に備え避難訓練を実施し、災害備蓄品が完備されている (中高生徒全員分×1 日分)	避難訓練の実施(年1 回) 生徒用災害備蓄品の完備 生徒用災害備蓄品の見直し	3/5 年目

【附属幼稚園】

附属幼稚園では、「未来を生きるための根っこを育てる保育」を保育方針に、子ども達が主体的に取り組める保育、受け止めて伸ばす保育を目指します。保育内容・保育環境の充実、教員の資質向上・保護者との関係強化を行い、樟蔭幼稚園のあるべき教育について多方面から引き続き取り組んでいきます。

1 入園者の確保				
No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
教育の質の向上				
1	カリキュラムの充実	カリキュラムの見直しが行われ、保育内容が充実している	保育内容の検証と改善のサイクル定着	3/5 年目
職員の質の向上				
2	職員間の共通理解	学期末に全職員が次学期の保育内容について検討し、課題を共通理解し保育に努める	全職員が共通理解を図るためのミーティング実施 可視化した保育内容の更新	3/5 年目
3	研修の充実	定期的・体系的な園内研修を実施している	現在の園内研修（園内公開保育）について、実施内容・時期の見直しと改善 外部講師の依頼	3/5 年目
子育て支援の充実				
4	長期休暇中の預かり保育の実施	盆、正月以外の預かり保育を実施している	夏・冬休みの預かりについて実施後、検証と改善	3/5 年目
5	給食の増加	給食を週 3 回（現在は週 2 回）実施している	週 3 回の給食の実施	3/5 年目
商圈エリアの拡大				
6	車送迎の実現	車通園者が日常的に車寄せを利用している	本格導入の検証と改善	3/5 年目
広報活動				
7	ポスター貼り、広告配布、Web 広告、ホームページの充実	広報媒体の範囲が拡大している	新しい広報媒体を含め、有効な広報媒体の活用・検討	3/5 年目

2 未就園児の確保				
No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
未就園児クラスの充実				
8	保育時間の延長	降園時刻が 13 時になっている	2022 年 2 月～5 月にかけて弁当（給食）を実施し、年少クラスへの移行方法を含め検証 秋以降の実施を目標化	3/5 年目
園庭開放の充実				
9	広報、SNS の強化	園庭開放についての広報が活発に行われ、来場者数増加につながっている	改善した広報の実行 引き続きアンケートを通して広報の効果の検証	3/5 年目
10	内容の充実	内容が充実し、来場者が満足している	実施時に行ったアンケートや、他園の取り組みを参考に、内容の検討、充実	3/5 年目

3 安心・安全の確保

No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
環境整備				
11	点検・修理・修繕	計画的に点検・修理・修繕を行い、安心・安全な保育環境を提供している	点検シートをもとに日々の点検、必要な修理修繕計画をもとに実行	3/5 年目

4 大学・高校との連携

No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
様々な学科等との連携				
12	健康栄養学科との連携	健康栄養学科から給食、おやつ等の監修・提供がされている	学科と連携して試行	3/5 年目
13	化粧品ファッション学科との連携	化粧品ファッション学科から手作り衣装・玩具等が提供されている	学科と連携して試行	3/5 年目
14	児童教育学科との連携	教育実習、ボランティア活動の場が提供できているとともに、共同研究、行事(子育てカレッジなど)参加が促進されている	児童教育学科との連携強化	3/5 年目
15	ELTC との連携	外国人教員が常駐している	ELTC と連携して試行	3/5 年目
16	児童教育コース(高校)との連携	保育・実習体験に協力し、行事の手伝い・参加を維持している	児童教育コースとの関係を維持する	3/5 年目

5 地域との連携

No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
地域交流の充実				
17	幼稚園行事の地域開放	夕べの集い、焼き芋パーティー、野菜の収穫等を地域に開放している	地域と連携して試行	3/5 年目

【学園】

学校法人樟蔭学園では、今後も社会から必要とされる教育機関として生き残るため、状況の変化に対応し、教育の質の保証を担保するとともに、経営の効率化による持続的かつ安定した財政基盤を確立していきます。そのためにも、ガバナンス機能の強化、教育機能の強化、職員の能力向上、施設設備の充実等、積極的に取り組んでいきます。

1 建学の精神の浸透				
No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
建学の精神に基づく学園ブランディングの再構築				
1	建学の精神とその現代的解釈の学内外への浸透策の検討・実施	建学の精神を現代的に解釈した「樟蔭美」のブランドが確立され、学内外に浸透している	具現化した取り組み内容の定着 学外への発信強化	3/5 年目

2 中高大接続				
No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
中高大の連携強化				
2	各コースと学科の連携強化	高校の各コースと大学の各学科の連携を強化することにより、内部進学の特長が明確になっている	連携内容の見直しと改善	3/5 年目
3	教育プログラムの接続	高大教育連携部会において、特色ある高大一貫科目を設置し、魅力ある単位認定制度を構築している 初年次教育において、新たな教育プログラムを実施している	認定単位化できる授業の拡大と、単位認定制度の構築 新しい高大接続教育プログラムにあわせた初年次教育の検討	3/5 年目
4	内部進学推進と入試制度の整備	樟蔭高校から大阪樟蔭女子大学への内部進学者数 120 名を確保している	内部校への進学特長の拡充 新入試制度下での内部進学の特長訴求 財務特長の見直し 各行事の実施と内容の改善及び効果検証（中高全教員対象学部学科説明会、高 3 担任情報交換会、生徒対象進路説明会、学科別説明会、大学授業体験、中高保護者対象説明会、リソースを活かした連携イベント、オープンキャンパス）	3/5 年目

3 経営・ガバナンス強化				
No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
理事会機能の強化				
5	役員の職務及び責任の明確化	運営基盤が強化され、教育の質の向上及びその運営の透明性の確保が図られている	役員機能の強化（研修等の実施） ガバナンス・コードに沿った運営基盤の強化	3/5 年目
中期的な計画の策定				
6	第Ⅲ期中長期計画アクションプランの実行	Shoin Vision 2030 第Ⅲ期中長期計画の目標が確実に達成されている	2022 年度アクションプランの確実な実行と管理	3/5 年目

情報公開の充実				
7	法人・教学部門双方の積極的な情報公開	法人・教学部門の情報が積極的に公開され運営の透明性の確保が図られている	積極的な公開による透明性の確保	3/5 年目

4 働き方改革や、制度・運用の見直し				
No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
時間外労働の削減				
8	業務負荷分析による適正な人員配置と適材配置	業務負荷分析により各部署に適正な人員と適材が配置されている 学園全体の残業時間が削減されている（残業時間数：2019 年度と比較して 15%削減）	業務負荷分析の見直し 人員と適材の配置の見直し （残業時間数：2019 年度から 9%削減）	3/5 年目
同一労働同一賃金の導入				
9	身分や業務に即した役割と待遇の明確化	身分毎・部門毎の役割が明確化され、その内容について労働者が理解し納得している	必要に応じて労働者へ説明	3/5 年目
規程の整備				
10	規程体系と諸規定の見直し	明確に体系化した規程が周知できている	学園諸規程の見直し	3/5 年目
11	手当や申請書の見直し	適切な手当が支給されている 適切な申請書が使用されている	就業関連手当の検討及び各種申請書の見直し	3/5 年目
危機管理対策の充実				
12	危機管理マニュアルの見直しと危機管理体制の強化	十分な危機管理対策のもと、教職員が危機管理について理解し、有事に対応できる	全学的な避難訓練の実施	3/5 年目

5 人財の育成				
No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
学校職員としての資質向上				
13	階層研修の見直し	求める能力に即した研修が実施されている	コロナ禍におけるオンライン集合研修も視野に入れながら、第Ⅰ期、第Ⅱ期の研修計画の実施状況も踏まえ、求める能力に則した階層研修を含む研修の実施	3/5 年目
14	OJT 型（学内講師）研修の充実	学内において管理職、一般職が講師として研修が行われている	次年度 OJT 研修の立案と実施（講師：管理職）	3/5 年目

6 寄付金募集

No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
寄付金収入の確保				
15	寄付に協力しやすい環境づくり	税金の優遇措置などを明記した効果的な趣意書を作成し、学園報発送時に同封している 寄付しやすい振込方法を実施し、寄付金収入が増加している (1 年間の一般寄付金収入:1000 万円)	趣意書や振込方法の効果検証 その他の協力しやすい環境づくりの検討もしくは実行	3/5 年目
16	寄付者データの整備	寄付者データベースの運用と活用がなされている	寄付者データベースの運用と活用(卒業生の名簿とマッチング)	3/5 年目

7 知名度の向上

No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
学園としての広報活動の強化				
17	学内外への情報発信力の強化	プレスリリースでの情報発信を活発に行い、報道機関からの取材が増加し、マスコミとの連携が強化されている(プレスリリース:50 件、報道機関からの取材:25 件) SNS、広報誌等で教職員、卒業生、保護者への情報発信を行い、帰属意識が高まっている 各校の定員充足につながっている	プレスリリース、SNS の配信の効果検証 (プレスリリース:40 件、報道機関からの取材:25 件)	3/5 年目
18	学園で一貫した戦略による広報活動の充実	費用対効果の高い駅看板、駅貼りを活用する等、学園で一貫した戦略による広報活動を実施している	駅看板、駅貼り等の見直しと改善 新たな広報活動の検討	3/5 年目

8 樟蔭愛の顕在化

No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
卒業生(同窓会含む)とのネットワークの強化				
19	ホームカミングデーの企画・運営	毎年 250 名以上が参加している	企画・運営の検証・改善	3/5 年目
20	同窓会との連携及び相互協力関係の強化	同窓会と連携して卒業生向けのイベント等を行い、相互協力関係が強化されている	卒業生向けの講演会等の企画の見直し、改善 学年会・クラス会等へのサポート体制の構築	3/5 年目
21	学園報「くすのき」の発行と卒業生向けの SNS 「樟蔭ファミリー」の発信	学園報や SNS がさまざまな世代の卒業生と学園をつなぐツールとして運営されている	2021 年度の検証をもとに、楽しみにしてもらえるツールへの改善 「樟蔭ファミリー」のインスタグラムの実施 「樟蔭ファミリー」のフェイスブックの実施	3/5 年目
22	卒業生のデータベースの構築と活用	卒業生名簿の管理業務を同窓会から学園側へ移管し、就職先等を含めた卒業生データベースが完成している	データベースの完成 卒業生名簿の管理業務を同窓会から学園側へ移管できるように調整	3/5 年目

9 歴史資料の管理				
No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
歴史資料の整理と保管				
23	資料目録のデータベース化の構築と活用	資料目録がデータベース化され、研究や授業で歴史資料が活用されている	資料の整理 目録をもとに、データベースの構築	3/5 年目

10 安心・安全な教育環境の提供				
No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
環境整備				
24	施設・設備の運営維持	施設・設備が機能・性能を継続して適切な状態に保持され、安全、快適、効果的に運用されている	施設・設備の環境を維持・保全するため、関係法令を遵守し、法定点検・定期点検を確実に実施・報告 施設・設備等 5 か年計画を立案し、実施する修繕工事・改修工事の計画を推進 施設・設備の日常的な点検に基づき事前措置を行い、異常発生時には速やかに修繕を実施 設備中央監視システムで設備の稼働・消費状態を監視・制御し、効率的な設備運用管理を実施 事故・災害に対する事前の安全対策及び、被災後の復旧対応の実施	3/5 年目
25	施設の耐震化	対象施設の全てが耐震化され、耐震化率100%となっている	計画なし(完了)	—
26	遊休不動産の活用	維持保全ができていない施設は継続して有効活用、できていない施設は解体し不動産の有効活用がなされている	計画をもとに実行	3/5 年目

11 安定した財政基盤の確立				
No.	施策	最終目標	2022 年度事業計画	年数
収支バランスの改善				
27	毎年度の提示予算の算出及び、実績比率による検証	収入に見合った支出を行うことにより収支改善が図られている (法人全体の構成比率/ 人件費比率:56.8% 教育研究経費比率:28.6% 管理経費比率:7.0% 他 経常収支差額比率:7.2%)	目標達成状況に基づく支出状況の検証と問題点の見直し 予算決定後の稟議による支出状況の厳格化 (法人全体の構成比率/ 人件費比率:57.3% 教育研究経費比率:28.6% 管理経費比率:7.0% 他 経常収支差額比率:6.6%)	3/5 年目
28	施設・設備等 5 か年計画の検証	第Ⅲ期中長期計画を踏まえた施設・設備等 5 か年計画を検証し、収支改善が図られている	目標達成状況に基づく施設・設備等 5 か年計画の検証と問題点の見直し	3/5 年目
遊休不動産の整理				
29	遊休不動産の処分	適正な手順で売却又は譲渡先を決定、契約交渉及び契約締結し、引き渡しされている	計画をもとに実行	3/5 年目